

DADDJIS での環境教育活動記録 2009.5.26~2009.11.2

木村 暁代

私がイカオ・アコの活動でもっとも力を入れたことが環境教育である。

この環境教育アクティビティは、主にシライ市バラリン村の DADDJIS (ダッジェス)・エレメンタリースクール及びハイスクールで行なわれた。バラリン村にあるダッジェスは、小学校・高校共にマングローブ植林などイカオ・アコの活動に長年参加しており、校長はじめ、職員も協力的である。

地球の将来を担う子どもたちに、「環境」という新たな価値観で物事を見ることを教えるのは意義あることだ。今後もぜひ継続して欲しい。レクチャーの準備をする中で、環境についての知識を得ることが出来るし、英語でコミュニケーションをとるトレーニングにもなる。なにより子どもたちとの交流はとても楽しい！後任のインターン生にも、ふさわしい仕事内容だと思う。

少し長くなるが、活動記録としてここに詳細を記しておきたい。

●7月31日 ハイスクール 4年生

海岸漂着ごみ問題・ごみ分別についてのレクチャー(30分)と海岸清掃活動(1時間)

※ 個人ツアーの森山あゆみさんがゲストとして参加してくれた。

※ ドイツから PEMO に環境教育のボランティアに来ていた MOMO さんと、バラリン村のアーティストであるエルビンさんが構成についてアドバイスをくれた。エルビンさんは、当日も子どもたちに対してイロゴ語でメッセージを発してくれた。

1、イカオ・アコの紹介と海岸のごみ問題について

・イカオ・アコの活動、特になぜマングローブを植樹するのか、ということについて説明した。また、マングローブが無事に育つためには、植樹だけでなく海岸の美化活動が大切だということ話す。海岸のごみ問題について子どもたちの意見を聞く。

・マングローブが高波や塩害などの危険から人々の暮らしを守り、豊かな恵みをもたらしてくれるということ話をした。(バラリンでの植樹風景、海産物、ニッパ椰子で出来た屋根の家などの写真を使用。)

・マングローブが無事に育つためには、植樹だけでなく海岸の美化活動が大切だということ話す。プラスチックごみが枝に巻きついて木を傷つけたり、成長をさまたげたりしてしまうこと、そのためイカオ・アコや BAMP A は植樹だけでなく、ごみ拾いなども力を入れて定期的に行なっていることを説明した。

・海岸清掃は時間もお金も人の力もかかり、全てのごみを回収するのはとても難しいこと、プラスチックごみは潮で砂のように粉々になること、また一度きれいにしても新しいごみが次々に打ち寄せること、を説明した。(プラスチックが巻きついた木、海岸清掃の写

真など)

・プラスチックごみや金属ごみは、海の動物たちを傷つけ、時に死に追いやることもしばしばある。(ごみを食べて餓死した鳥、缶リングで体が切断された魚などの写真など)

この写真を見たときの子どもたちの反応は大きかった。ネガティブな感情にひきつける方法ではあるが、モチベーションは高まったように思われる。

・ごみの問題は、環境美化の他にもたくさん問題がある。子どもたちに挙手してもらい、どんな問題があるか、意見を聞いた。例えば、医療ごみをそのまま捨てることは伝染病の感染を引き起こす可能性があることなどが意見として上がってきた。

ここで、これまでの説明を理解しているかクイズを出した。

正解者3名には、イカオ・アコのリサイクル商品の小銭入れをプレゼントした。

2、ごみ分別について

生分解するごみ、生分解しないごみの違いについて話す。例えばバナナの皮は3~4週間、ウールの靴下は1年で土に還る。しかし発砲スチロールは1000万年かかる、と言われてい、等。イラスト入りのボードを用意し、年数は隠して子どもたちに質問する。クイズ形式だと盛り上がる！

3、3Rについて、例を出しながら説明。

Reduce・・・例：必要ないときはレジ袋を断るだけでも、ごみを減らせる。

Reuse・・・例：瓶のジュースは、お店に返せば洗ってまた使えるので、リユースできる。缶やペットボトルよりは環境にいい。

Recycle・・・例：イカオ・アコのジュースパックのリサイクル製品や、エルビンさん製作のアクセサリーを紹介。

4、家庭から持ってきたごみを分別するゲーム。

CAN、GLASS、PLASTICBOTTLE、PEPAR、PLASTIC、GABAGE のラベルを用意した。空き缶、ジュースパック、バナナ、紙袋、お菓子の袋などのごみを子どもたちに配って、上記のカテゴリどれに当てはまるかに分類してもらった。

5、生徒たちに自由に写真を見てもらう時間を5分間とった。

6、スタッフ、ゲストと共に、マングローブ林の橋付近のごみ拾いに出かけた。



●ゴミが自然に分解するまでにかかる期間についてクイズ ●積極的にクイズに参加する子供たち

● 8月10日 マングローブについて〇×クイズ・・・エレメンタリースクール全員
 ※第49回ツアーのアクティビティとして。最後まで残った子どもたちには文房具などをプレゼントした。ハイスクール3年生は、ゴミ拾いに参加してくれた。

【クイズの内容】

- ・ マングローブという名前の植物があるか？
- ・ この花はパガパットの花か？(写真を見せて)
- ・ マングローブはヨーロッパに生えているか？
- ・ マングローブはサウジアラビアに生えているか？
- ・ マングローブはコレラの薬の原料になるか？
- ・ マングローブの伐採はバラリン村でのみ禁止されているか。



●最後まで勝ち残った子供にインタビュー

●優勝者たちと第49回ツアー参加者で記念撮影

● 9月22日 ごみ分別についてレクチャー・教室用のごみ箱作り・・・ハイスクール2年生
 ※第51回ツアーのアクティビティとして

なぜごみ分別が必要かという導入のあと、ごみ箱づくりに。

不燃、可燃、リサイクルのラベルを赤、青、黄の紙で作って、ゴミ箱の同じ場所に貼り付けるように指示。その他のデコレーションは古雑誌、新聞紙、折り紙、ジュースパックの

切りくずなどを自由に貼り付け、楽しく創作する時間にした。美術の授業がなくても、フェスタなど地域のイベントが多いせいか、フィリピンの子どもは美的センスがとてもある。子どもたちは熱中していたのに、市長訪問などの関係で予定より時間が押してしまったこと、後片付けを一緒に出来なかったことが申し訳なかった。反省点である。

準備したもの：段ボール箱（スーパーマーケット(バコロドのロビンソン)から買い取ったもの）、ボンド、はさみ、マーカーなど



●出来上がった分別ゴミ箱の前で記念撮影

●10月22日 ごみ分別についてレクチャー・校内クリーンアップ・・・ハイスクール1年生



●炎天下の中校庭のゴミをくまなく清掃。写真は生徒が育てている菜園周辺 ●構内で拾ったゴミを3つに分別

◆環境教育総括◆

ごみ拾いをしてみて気が付いたのだが、子どもたちは、落ち葉などの土に還るごみについては、あまり理解していない様子だった。製作したゴミ箱も、きちんと活用されているとは言いがたい状態で、手荒に扱うので壊れてしまったものも多数。教室のごみ箱の中身はプラスチックも紙ごみも混ざっていた・・・。「わかる」と「できる」の差の大きさを痛感した。質問の仕方など、気をつけなければいけないと思った。

フィリピンの子どもは反応はとてもよいのだが、環境問題に強い関心があるというより

は、外国人が珍しくもてなし上手であることと、イベント好きであるためにそのように見えるということは否定できないだろう。きっかけとしては大いに生かすべき長所であるが、成果は楽観視しすぎず、とにかく継続して働きかけることが重要だと思う。

また、教室に分別ゴミ箱を置いて、その後学校全体の分別のされていないごみだめに捨てるため、結局はあまり意味がなく、説得力を持たせられない。ごみが回収された先のことを考えても、日本とは違って、全てのごみは焼却されず埋め立てられるので同様である。まずはごみを減らすこと(生ごみや落ち葉は堆肥できるということへの理解と定着)、と美化活動(ごみはゴミ箱に捨てる)にしぼるのも現実的ではないかと思う。

「ごみ分別」については、学校全体のごみ回収までのプロセスについて見直すことが必須である。根氣的に、なおかつ学校だけでなく周辺環境も含めて努力が必要だが、改善の可能性は大いにあると思う。行政と教育、システムと意識の双方の改革が求められる。シライ市が今後ごみの分別回収に意欲があるのであれば、ごみ分別のモデル地区としてバラリン村、もしくはダッジェス校内の美化に、市と共同で取り組めないものだろうか。長期的計画として、ぜひ提案したい。